



学校法人
鎌倉女子大学

一様化と多様化の間で

—平成26年度大学院・大学・短期大学部学位記・修了証書授与式／3月14日（土）学長式辞より抜粋—

大学院・大学・短期大学部、総勢853名、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

特に今年の方の学部卒業生諸君は、あの4年前の3・11、東日本大震災の発災直後に入学した方々です。計画停電の実施によって電気が来ない、水が出ない、交通機関がままならないと伝えられる中のことでした。一堂に会して、この松本講堂で行なうはずの入学式も見合わせる中で、オリエンテーションも日時を変更しながら、分散して行なったことを覚えていることと思います。

実際、被災した故郷から、後ろ髪をひかれるように、ご両親から送り出された人たちも相当数おられたわけで、恐らく皆それぞれに、普段は当たり前のことが、当たり前に行なえないもどかしさを感じながらスタートした学生生活であったことと思います。

さて、昨今の世界の情勢を見回してみますと、どうもグローバル化した世界は、私たちが期待する「調和」とは全く違った、「対立」の方向に進み始めているようにも感じられます。今、私は、例のアイシルの話を始めようとしているわけではありません。全くアリババの世界、中世に逆戻りしてしまったような、あのような無法・無慈悲な集団は論外であります。

しかし、私たちが「普遍的に」知っておかなくてはならないことがあります。確かに、通信技術の発展は、世界の人々が同一の情報を同時に獲得する機会をもたらしました。ヒト・モノ・カネの国際経済の交流は、世界の人々が同一の商品を同時に享受する機会をもたらしました。丸い地球が裏側を失って同一のシステムの下に「フラット化」、つまりは「水平化」されたともいわれるわけです。

しかし、このように世界がグローバル化していくということは、その度合に応じて、それまで異なる地域・異なる文化の中に暮らしてきた人々を否応なく同じ土俵の上に引き出し、利害をかけて付き合わざるを得ない状況を作り出すこととなります。また、それだけに、社会のあちこちに「文明の衝突」を惹き起こすことにもなるわけです。

一方において、例えば西欧の民主主義的な生活価値、「表現の自由」といった正義を声高に叫ぶ人々がいます。他方において、例えばイスラムの伝統主義的な宗教価値、「それは信仰の冒瀆である」とする異なる正義を声高に叫ぶ人々がいます。無論、自分達の価値を尊

ぶことは、お互いに大切なことです。でも、その価値を絶対的な正義として声高に叫び始める時に、人は、自分の掲げる正義に盲目となり、相手の価値への尊敬を失って、対立ばかりが増幅されていくことになる。

全てが一様化されていくグローバリゼーションの只中に生きざるを得ないからこそ、私たちは、ローカルに点在する、それぞれ異なる価値の多様性の意味に心を配らなくてはなりません。グローバリゼーションの只中に生きざるを得ないからこそ、私たちには、自分の信じる価値についての謙虚さがまた一層求められているわけです。奇しくも戦後70年を迎える今、日本もまた、こうした時代の只中に引き出されているのです。

尊敬する正に日本のファーストレディーでいらっしゃる皇后陛下は、ご著書『橋をかける 一子供時代の読書の思い出』の中で、幼少期の読書のご体験を振り返りながら、こう綴られておられます。「読書は、人生の全てが、決して単純でないことを教えてくれました。私たちは、複雑さに耐えて生きていかなければならないということ。人と人との関係においても。国と国との関係においても」。

一つの正義を声高に叫ばない、多様な価値の間に身をおいて「複雑さに耐えて生きる」、それは、社会にとっても個人にとっても、どんな場合にあっても、私達が心に止めなくてはならない永遠の真理でありましょう。

[>前のページへ戻る](#)